猫の慢性腎臓病に関する疫学調査

調査にご協力いただけるご家族を募集しております

どうして腎臓病になるの?

どうしたら腎臓病にならないの?

実施責任者
日本獣医生命科学大学
付属動物医療センター腎臓科
准教授　宮川優一

どうして猫にはこんなに腎臓病が多いのでしょう？

高齢の猫の30%以上が慢性腎臓病になると言われ、また腎臓病で亡くなる猫は非常に多いです。犬と比べて、猫ではどうしてこんなに腎臓病になる子が多いのでしょうか。古くから猫には腎臓病が多いと言われてきましたが、実はその理由はわかっていないのです。一口に、腎臓病といっても非常に様々な原因があります。人では、糖尿病を原因とする糖尿病性腎症が多いです。しかし、猫ではその原因すらほとんどわかっていません。愛猫を病気から守りたいと思うのは当たり前のことです。しかし、原因がわからなければ、予防しようもないのが現状なのです。

猫の慢性腎臓病の疫学調査が必要な理由は？

海外の報告では、慢性腎臓病になる猫の疫学調査がいくつか行われています。しかし、その結果は各国でばらけており、「こういう猫が慢性腎臓病になりやすい」という結論を出すまでには至っていません。国が違えば、猫の生活も異なるため、一貫した結果は出ないのかもしれませんし、国によって猫の腎臓病の原因が違う可能性もあります。しかし、日本国内で猫の慢性腎臓病の疫学調査が行われたことが一回もありません。慢性腎臓病になってしまった猫はどのような生活を送っていたのか、腎臓病にどのような特徴があるのか、そういったことが国内の猫ではまったくわかっていないのです。腎臓病を治すということももちろん大事ですが、そもそも腎臓病にならないことも非常に重要だと考えています。私は、猫が腎臓病が多い、猫だから腎臓病になるのは仕方ない、そう言われてしまう現状を変えたいと思っています。そのための一歩として疫学調査が必須なのです。

疫学調査の概要

この調査は、今腎臓病になっている猫だけでなく、健康な猫も対象としています。それは、将来的に腎臓病になってしまうのはどのような猫なのかを調査する必要があるためです。実施する内容は次の通りになります。

・日本獣医生命科学大学付属動物医療センターに来院していただきます。
・生活環境に関するアンケート
・血液検査、尿検査、血圧測定、腹部および胸部の画像検査
・可能であれば、1年に1回同じ検査を受けていただければと思います。

すべての検査は無償にて行います。血液検査に関しては後日ご報告させていただきます。
もし病気がみつかった場合には、腎臓や泌尿器の病気に関しては、実施責任者である日本獣医生命科学大学付属動物医療センター腎臓科の宮川が病気の説明や今後の治療方針に関してご説明いたします。他の臓器の病気に関しては、ご報告書を作成の上、必要に応じて当院の専門診療科へご紹介いたします（見つかった病気に対するその後の検査や治療に関しては無償とはなりません。申し訳ございません。）。大変申し訳ないのですが、謝礼や交通費をお出しすることができません。健康診断や医療に関する相談を無償で行うことを参加の謝礼とさせていただければと思います。
この調査ご参加いただける場合、以下のメールアドレスまでご連絡ください。またこの調査の詳細は本学のホームページに載せております。

連絡先：nvlu_vim2nd@nvlu.ac.jp, TEL 0422-31-4151（実施責任者：宮川優一）